

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200965		
法人名	社会福祉法人 一粒の麦の会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 パスカの丘		
所在地	佐世保市江迎町栗越214-2		
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 3 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 3 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2014_021_kani=true&JigyosyoCd=4290200965-00&PrefCd=42&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 28 年 3 月 2 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のそれぞれの状況に合わせた個別支援に力を入れており、安心・安全の生活が送れるよう配慮しながら支援しています。また、利用者の希望の実現、生きがいの創出につながるよう毎日の支援を大切に、共に協力しながら生活をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部に位置する当事業所は、サービス付き高齢者住宅(サ高住)と障害者施設が敷地内に隣接し、共に協力しながら利用者の自立を促し、その人らしく生活できるよう支援に取り組んでいる。開設4年目を迎える建物は全体的に明るく、職員と利用者はアットホームで良好な関係にあり、職員・利用者・訪問者からも明るい感じが窺えた。新しく利用者の自分史をアルバム形式で作成し、プレゼントする活動にも取り組んでいる。理念を基に月毎の目標を定め実践に取組、職員に過度な負担がかからないよう考慮し、資格取得の援助や無理な仕事をしないよう適材適所で人材を配置し、リーダーは役割を持つ事で遣り甲斐を持ち、職務に当たっている。運営推進会議を通して参加メンバーや職員の意見を取り入れ、皆で協力しながら改善に取り組む姿勢が窺え、今後の展望が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

パスカの丘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、理念の復唱を行い、共通認識を図っている	「人を大切に」の理念を基に、月毎の目標を定め、職員それぞれが共通認識を持ちながら理念・目標の実践に努めている。半年に1回自己評価を行い、管理者と個人面接を通じて振り返り等を行い実践できるよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一法人事業所と共に地域行事の参加や外出等で交流できるよう配慮している	法人で地域の方向けにクリスマスコンサートを行い、地域の方を招待したり、理事長が月に1～2回(カトリックの)ミサを行い、利用者・地域の方が参加している。また、包括の提案で、場所を提供しフリマを行い地元の店も参加し、共に交流を持つよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や運営推進会議などをもとに、認知症における実践を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での取り組みをオープンに報告することで、助言等を頂き、改善等に繋げている	行政・民生委員・家族・他事業所管理者が参加し状況報告・質疑応答を行っている。包括の方の資格を活かした話を情報としてもらう事もあり、特に勉強会の報告には内容に関する質問も多く、参加者の関心度が窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政・社協などの担当者と常に連絡をとり、報告や相談等を密に行っている	市へは月に2～3回相談等に伺い、相談しやすい関係にある。民生委員からの相談から足腰が弱くなった方の利用に繋がっている。事業所には市外からの利用希望の相談も多く、地域密着型である為に断らざるを得ない状況にある。利用者の希望に応えられるよう特例枠等の緩和を願っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などにより、法令遵守や、拘束の行為などを職員が共通認識をもてるように行っている	帰宅願望のある利用者の原因把握に努め、職員は休憩時間を使って身体拘束をしないケアについて話し合うよう努めている。また、昼夜逆転している方は服薬し夜眠れるようにしているが、看護師の方針で減らす方向で検討している。言葉による抑制(「ちょっと待って」等)の説明不足を認識し、常に職員で共有し配慮するよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講習会などに参加したりして、それをもとに職員同士で理解できるよう勉強会を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行い、対象者においては、管理者より説明があり、皆で共通認識を図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約においては、管理者によって行われるが、ご家族・利用者との関わりにおいて、不安や疑問などは管理者へとつなげている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をもとに、あがってきた意見・要望等を提示し、その場で委員の方々より意見を伺っている	連絡する事等は家族へ直に渡し、今の状況を伝えるように心がけ、推進会議への参加家族等からの意見・要望を反映するよう取組んでいる。月に1～2回実施のレクリエーションに個別支援を反映し、状況に応じて買い物支援にも取組んでいる。今後は利用者・家族の話し合いの場を設置する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、管理者が意見・提案等を提示できる場を設けてくれている	毎朝・昼・夕及び職員会議・半年に1回個人面談を設け、意見や提案を聞き反映させるよう努めている。職員よりレクリエーションについてマンネリ化の意見があり話し合いより良い案を実行している。また、職員の適材適所を配慮し、無理な仕事はさせないようにし、勤務体制等も各職員が話し合いながら取組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を常に考え、職員がモチベーションが維持・向上できるよう配慮されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会(毎月1回)を実施し、職員各自のスキルアップにつながるような内容で行われている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模の集い等に参加したりして意見交換している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者担当制をもとに、初期に関わる時間を多く設け、本人の不安等を解消できるよう配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者がより深く関わることにより、ご家族の不安等においても、耳を傾けながら信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階でしっかりと聞き取り等を行い、サービス開始後も柔軟に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に耳を傾け、観察を行い、本人の生活を維持できるよう寄り添う関係に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所しやすい雰囲気づくりに努め、日頃の状態などを話すことにより信頼構築に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が望まれることに耳を傾け、ご家族の協力を得ながらできることは、継続できるよう配慮している	利用者の中には重度化が進んでいる方もいるが、昔からの馴染みの美容室やお寺・教会等へ出かけられるよう支援に取り組んでいる。また、昔からの地域行事へも参加し、行事で再会した友人が訪ねて来る事を喜ぶ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間への配慮を行い、よりよい関係性が維持できるよう職員介入などを行いながら支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者により、経過等の確認を行ったり、相談などにも対応されている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	極力、本人の思いを実現できるよう耳を傾け把握できるよう努めている	利用者それぞれの宗教信仰に応じ、祈りの時間を設けたり、檀家さんに来訪してもらう事もある。現在はヒヤリハット体験の記録にも力を入れ、個人記録に反映し、思いや意向を深く把握できるよう取組中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が共通認識できるよう情報提供書の作成を行い、サービス提供に生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察により、現状を把握し、申し送り・カンファレンスにおいて共通認識を図っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察や本人ご家族の思いをもとにカンファレンスを行い、介護計画に反映できるようにしている	担当制を設け、職員2名で利用者の日頃の細かい事から生活全体の把握に努め、ケアマネが計画書を作成している。カンファレンスではサ高住の中での関係や問題も話し、計画書には通いに関する事を反映している。家族とは連絡ノートで共有を図り、利用者個々の目標が達成できるよう業務日誌で項目をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実施、観察を記録に残し、ケアノート・連絡ノート・カンファレンスなどをもとに見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の必要なニーズに対応できるよう、柔軟なサービス提供を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの関係者などに協力を得たりして、本人にとっての資源を生かす事により、QOLを高めるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者のかかりつけ医の馴染みの関係を崩さず、本人の希望する受診に対応している	各利用者のかかりつけ医へ家族が同行支援している。家族対応が難しい時は事業所看護師が同行している。受診結果については、家族から口頭で報告してもらい、特に変更等ある時は病院から書面で報告をもらい、分らない事は確認し、利用者の状態に適切に対応できるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師との連絡がとれるようにしており、適時、対応できるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の方と連携し、病院との情報交換を行い、スムーズに対応できるよう配慮している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に確認をとり、本人・ご家族の希望に添えるよう体制作りに取り組んでいる	本人・家族の希望と主治医との同意及び連携を取りながら、希望に沿えるよう取組中である。 過去にサ高住の方の看取り経験があり、できれば最期までみたいとの思いがあり、最高齢の方や重度の方へ配慮しながら支援に努めている。	過去に看取りの経験はあるが、今後に備え看取り経験がない職員や振り返りを含め、早期の研修会や勉強会の実施を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成と共に勉強会をもって、共通認識を図っている。また、看護師との常時連絡をとれるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	訓練(年2回)を実施し、その際、講習を行い、職員・利用者の共通認識に努めている。地域の協力体制は検討中である	年に2回職員と利用者は共に避難訓練を実施している。重度の方もリクライニング椅子やシーツを使用した避難訓練を実施し、職員が体得できるよう努めている。近隣に住宅が少ない為、敷地内の同法人施設と合同での訓練を実施し、現在は消防団も含め地域住民との協力体制を検討中である。	災害(台風・地震・積雪・断水等)を想定した訓練の実施を期待したい。また、緊急時持ち出しファイルに写真を添付(顔・状態が分る全体)し、有事の際に第三者にも分るような工夫をお願いしたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重やプライバシーの確保に努めながらの声掛け・対応を行っている	利用者の人格を尊重し、優しく丁寧な声掛けに配慮し、誇りを損ねないような個々に応じた対応をしている様子が窺えた。管理者も最近では注意する事がほとんどない程、職員が言葉や対応に配慮して取組んでいる事を認識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	極力本人確認をとりながら本人の言葉で表現できるように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者への確認をとりながら本人のペースを乱さないように支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ物の繰り返しにならないよう入浴時や更衣時に配慮しながら整容している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好や食べやすさなども配慮しながら、会話などで楽しみながら摂取できるよう努力している	介助が必要な方はほぼなく、職員は利用者と会話しながら見守りに配慮している。月に1度「料理の日」を設け、メニュー決め・買い物・調理等、利用者と共に実施する取組がある。今後は職員も一緒に食事をする事を検討中である。	食事記録の所見のコメントが簡素な記録になっている。次の改善に繋がるように記録内容の検討をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量のチェック表をもとに、確保できるよう気をつけている。また、摂取が少ない場合は本人の嗜好品などの提供もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの行い、食事前などにも口腔体操を取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄状態に応じた対応を行い、極力トイレにて排泄できるように心がけている	極力トイレでの排泄に心がけ、できるだけ不必要なリハパン・パットの使用をしないように取り組んでいる。汚染があった時は、利用者の心身の状態に配慮し、本人を思いやる言葉かけをするよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、確認を行い、適宜水分や腹部マッサージを行い、最終は下剤などにて便秘解消を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴にてプライバシーを確保しながら、本人のペースに合わせた入浴を支援している	浴室エアコンとヒーターを利用し、浴室と脱衣室の温度調整に配慮している。利用者の希望に合わせ、自立の方は1人でゆっくり入れるよう、また、重度の方は職員が2名体制で安全面に配慮し、入浴支援に取り組んでいる。同性介助を希望する方には同性で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせ、休息を促したり、安心した入眠ができるよう環境整備などで対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が内服薬の説明書などをファイリングして誰でも確認できるように更新しており、誤薬等がないように、整備されている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しみや生きがいにつながるよう、各担当者が情報を提供し様々な活動につなげている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や本人の状況などに注意しながら、極力戸外へでかけられるよう支援している	重度化が進んだ利用者や登録人数が増えた事により、以前に比べると外出機会が減っている感もある。敷地内を散歩したり(法人内で連絡を取り安全に見守るよう配慮)、隣接のパン屋へ買い物に行く方、レクリエーションで家族と共に外出する方もおり、今後も職員で検討しながら外出の機会を増やす予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態を考慮しながら所持・管理が可能な方はもってもらい、同一法人などでの買い物もされている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添って、連絡のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、季節感が味わえるよう月ごとのポスター作成や、小物づくりなどで居心地よい環境作りを心がけている。	月毎の遊び心も窺える手作りポスターが共有空間の壁面に掲示され、季節を感じさせる。また、車椅子使用の方も安心して通れる動線を確保し、利用者のやりたい事がやれるよう職員は止めないように配慮している。お手伝いも女性是好んでし、男性には手伝ってもらえるようやりわり促し、自立した生活を促すよう取組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの場所を心掛けながら配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の私物で居心地のよい環境づくりを本人に確認しながら行っている	宿泊する部屋には、今まで使っていた物を持ち込んでもらい、安全に配慮した(マット等や購入場所等)物がある事等を伝え、利用者・家族が安心して過ごせるよう取組んでいる。また、整理整頓や掃除を一緒に行い、居心地良く過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物などを極力置かないように安全な環境づくりに努め、利用者の能力に応じた環境にも配慮している		